

第25回「上尾道路（江川地区）環境保全対策検討会議」

の議事概要について

1. 開催日時 令和5年2月9日(木) 18:30～20:00
2. 開催場所 上尾市文化センター 201集会室
3. 議事概要

1) 事業者説明要旨

①【開会】

②【議事1】規約の改訂について

③【議事2】前回の議事概要について

④【議事3】希少植物の保全の進め方について

⑤ その他

2) 意見・助言の概要

① 開会		
開会	事務局	<ul style="list-style-type: none">・今回の会議より、菅間委員の後任としてNPO 法人荒川の自然を守る会代表理事、木ノ内様に参加いただいている。・本日の検討会議は、昨年11月の第24回の検討会議で、時間の関係で説明しきれなかった希少植物の保全の進め方について再説明をさせていただきたい。 <p>(大宮国道)</p>

② 規約の改訂について		
議事1 (規約の改訂について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回、規約の内容について変更はない。今回会議より菅間様の後任で木ノ内様が委員となっているので、名簿の部分を改訂している。 (大宮国道)
	議事了承	

③ 前回の議事概要について

議事 2 (前回の議事概要について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備の環境モニタリングの結果について、当初株と新出株についてさまざまな視点で検討するなど、それぞれ指摘いただいたところを修正して、各委員に見てもらおうよう、指摘を頂いている。 ・希少植物の保全の進め方について、モニタリング期間や結果の評価の方法を明らかにしておく必要があるとのご指摘を頂いている。 ・道路排水浄化施設について、浄化ゾーンに隣接する凸部分の土地取得、管理用道路の規格や使い方の検討のご要望を頂いている。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・議事録については委員の方々にご覧いただいて、間違いないかお確かめいただくということでよいか。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご確認いただく時間が短かったので、この形ではよろしければ「(案)」を取り、もうちょっと見たいというお話があれば、お時間を頂いてしかるべき対応をさせていただきたい。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・議事録と議事概要とを送って頂いたのが1月末だ。少なくとも修正する時間が2週間くらいあれば随分違うと思うが、そういう時間のない中で、「できましたら承認を」というのは、ちょっと乱暴かなと思う。 (北村委員)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今日配布させてもらった議事概要は現時点での最終版になるので、ご意見がございましたら、事務局までお話をいただきたい。 (大宮国道)

③ 前回の議事概要について	
<p>議事 2 (前回の議事概要について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録を基に、「指摘事項とその対応」が書かれているが、サワトラノオの生育状況などそれぞれ指摘いただいたところを修正することになっている。亀山議長は、指摘部分を修正し、修正案についてもう一回、委員の方々にも見ていただいてまとめることにしたいと思うとまとめているが出てこない。なぜこんなに時間がかかるのか。 ・ 議事 4 で、亀山議長はデータを取って、移植できるかどうか見るといのはあるなと思うということで、データがどのようなになっているのか。また、折れ線グラフ作成などもお願いしているが、どうなっているのか説明を先にしていただきたい。 (北村委員)
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフ等々をまずは整理して、そこについてどのようなことが分かったのかについて、本日の資料に加えている。 ・ 指摘分の修正については、後日、各委員の方々に見ていただきながら、整理していきたいと考えている。 (大宮国道)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議でいろいろな議論をしていたわけだが、それを次回会議までにまとめましょうということだとわれわれは受け止めていたが、そのまとめが何も全然届かず、議事録がギリギリの中で出てくると、われわれもどう整理していいか非常に混乱する。前回の宿題に関しては、次の回までにはきちんとやっておいていただかないと、次の会を開いてもあまり意味がないのではないかと、3カ月何もしなかったということはないと思うので、最低限の説明をしていただきたい。 (北村委員)
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全の進め方の説明部分で、増殖実験等で分かったことについて資料としてまとめており、説明させてもらいたい。 (大宮国道)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事概要と議事録については、皆さんにご確認いただくこととさせていただきます。 (亀山議長)

④ 希少植物の保全の進め方について

<p>議事 3 (希少植物の保全の進め方について)</p>	<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3 については、これまでの現地調査や実験結果から、どのようなことが分かったのかということについても補足で説明しながら進めていきたい。 ・資料 3 は前回会議から変更はないので、ポイントを絞ってのご説明とさせていただく。北村委員からもご指摘があった内容について、参考資料 1 で説明する。 ・前回検討会議では令和 2 年までのデータで説明していたが、増殖実験、日照実験について、令和 3 年、4 年のデータを追加した。結果は棒グラフで表現して実験期間を明示し、当初株、新出株を分けて示した。 ・増殖実験の実験期間内は、過湿な環境を除き、H25 から H27 にかけて新出株が増加し、幅広い水分条件で世代交代が可能になった。H26 から H28 に競合種が調査区全面に拡大し、新出株が減少した。競合種の増加は新出株の出現を抑制し、世代交代を阻害した。 ・実験期間外は、増殖実験値①の斜面下部において当初株が生き残り、新出株により個体数を維持しており、競合種がいる条件でも世代交代が可能ということが見えてきた。 ・これらの結果から、移植地の選定条件について「斜面上部～下部の地下水位となる水分条件」、「競合種の拡大を抑制できる植生条件」が大事なところだと分かった。 ・日照実験の実験期間内は、橋梁模型からの距離の違いによる明確な差は見られず、自生地と橋梁の位置関係では日照影響は生じないことが分かった。また、H27 から H28 には新出株が減少し、競合種の増加が新出株の出現を抑制し、世代交代を阻害していることが分かった。
-----------------------------------	------------	---

④ 希少植物の保全の進め方について

議事 3

(希少植物の保全の進め方について)

事務局

- ・実験期間外は、橋梁模型下において、新出株による世代交代で個体数を維持できていることから、ある程度被陰される環境であっても、競合種が抑制されればサワトラノオの世代交代が可能であることが分った。
- ・これらの結果から、競合種の拡大を抑制できる植生条件、特にヨシ等の高茎草本により競合種が被陰される植生条件を、移植地の選定条件とした。
- ・部分移植の移植地として選定する条件をまとめると、「上尾側再生ゾーンのうち、現在希少種が生育していない箇所」で、「地下水位は概ね地表下 0～0.15m で推移し、夏の渇水時や冬季にも地表下 0.3m 程度に維持される箇所」「ヨシの被度が概ね 10%以上あり、競合するオギやナガボノシロワレモコウ等が優占しない箇所」が必要になると考えている。
- ・現在希少種が生育しない箇所という条件を加えて現地の確認をし、3 カ所を部分移植の移植地として選定した。
- ・モニタリングでは、各移植地のサワトラノオの生育状況を評価するために、生育株数等について調査を行う。また、移植地の生育環境を把握するために、光環境、水環境の調査を実施する。調査項目は、自生地の調査項目に準じて設定しており、調査結果の比較も可能と考えている。
- ・サワトラノオの生活史は、栽培株の生育実験や自生地のモニタリングの結果から、3 年目以降の株は 2 年目の生活史を繰り返すことが明らかになっている。
- ・まずは新出株 2 年目の生育状況を確認し、その結果を検討会議で報告させていただきたい。その上で、モニタリングが必要となる期間や、全体移植に向けた進め方について、議論させていただきたいと考えている。

④ 希少植物の保全の進め方について		
議事3 (希少植物の保全の進め方について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の希少植物の保全の進め方は前回会議から変更はないので、ポイントを絞ってのご説明とさせていただきます。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・サワトラノオの段階的移植について、ご意見をいただくことにする。 (亀山議長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・私たちはよほどバカにされているのか。折れ線グラフでお願いしたいとずっと言ってきたはずで、それをわざと棒グラフにしているというのは。折れ線グラフと棒グラフ、どちらが理解しやすいか。私はいつも折れ線グラフで資料をもらうようにしている。なぜ折れ線グラフを作っていただけなかったのか。 (北村委員)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフも作成したが、新出株や当初株などをグラフにすると、いろいろと複層して入るので、見せ方としては同じものになるが、棒グラフでグラフ化させてもらった。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・判断するのは私たち。折れ線グラフの方が分かりやすいと思ったら、こっちの方がいいと言って押し付けられて、それで判断しろとか意見を求められるのは不愉快。折れ線を作ったのであれば出していただけるか。どちらが見やすいか、私たちが判断する。 (北村委員) ・今日は会議やめましょう。ばかばかしくてやってられない。 (堀口委員) ・ないわけではないのでしょうか。 (亀山議長) ・どこかにあるでしょう。コピーしてください。 (北村委員)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今、コピーの準備をしている。 (大宮国道)

④ 希少植物の保全の進め方について

議事3

(希少植物の保全の進め方について)

・時間がかかるので、それ以外について、ご質問やご意見をどうぞ。
(亀山議長)

・3年目以降の株は2年目の生活史を繰り返すと書かれているが、そうだとしたならば、こうやって減ってはいかない。約10年、増殖実験をやった評価としては非常にお粗末ではないか。もう少し丁寧にということを、前の24回の会議でも同じようなことを言って、それは課題にもなっていたと思う。確か亀山先生も「もうちょっと書き方があるのではないか」というご指摘をされたと思う。この状態でまた植えても、同じことを繰り返すのではないか。そうではないと否定できる科学的根拠がよく見えない。
(北村委員)

・ずっと2年目のように花が咲いて種を落として、そこから出てくるものがまた花を咲かせるということが書かれているが、これは既存文献でそうだとした、今回の生育実験結果からもいえるのか。資料には「サワトラノオの生態学的特性について、既存文献調査、生育実験結果より把握した」とあるが、生育実験結果からは、今言われたように、こうはならない。
(亀山議長)

・実験結果だと、2年目は増えるが、その後は減っていく。一番増えた時のことを参考にしても仕方がない。
(北村委員)

・生育実験結果を入れるとこういう記載にはならない。2年目の生活史を繰り返さないでだんだん減っていってしまうということは。
(亀山議長)

④ 希少植物の保全の進め方について		
議事 3 (希少植物の保全の進め方について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年目以降、2年目の生活史を繰り返し続ければ、減るということはないという指摘かと思う。順調に生育すれば3年目以降も2年目の生活史を繰り返すということだが、表現としては不適切なところがあった。個体の寿命、地域の地盤や地形、環境という条件で、枯れてしまうものも当然ある。令和3年のデータを追加しているが、当初株と比較すると、減少していることは否めない。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどの説明の時に、わざわざ「3年目以降は2年目の生活史を繰り返すのだから」と言いましたよね。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどご説明したのは、順調に行っていれば、3年目以降は2年目を繰り返すので、新出株と当初株、世代交代も含めて、そのような環境は整っているのかという部分を見ていくことにより、移植地として環境はどうかというモニタリングができると考えている。 ・ モニタリング期間として、新出株に着目するということだと考えると、まず、2年目の状況について現地調査結果を委員の皆様にご説明し、移植地がどういう状況なのかということについて、またご意見やご助言をいただきながら、全体移植に当たっていきいたいという説明をさせてもらうために、資料の5ページを引用させてもらった。 ・ 確かに3年目以降の株は2年目の生活史をずっと繰り返す、書いてあることと違うのではないかというご意見もあり、この表現については反省する。 (大宮国道)

④ 希少植物の保全の進め方について

議事 3

(希少植物の保全の進め方について)

- ・これは既存文献調査と生育実験結果から把握したのか。つまり、既存文献ではこう書いてあるけれども、生育実験ではそうっていないという話ではないのか。生育実験結果だと、どんどん減って行って消えてしまうのではないか。だから、これは「3年目以降の株は2年目の生活史を繰り返す」というようにはなっていない。この実験結果を把握していれば、そんなことは書かないはずである。
(亀山議長)
- ・既存文献調査はこう書いてある。実験結果はこうである。その両方を合わせた考察の結果を書くのが科学的というか、客観的という話。
(北村委員)
- ・2年間では大丈夫ではないので、5年目以降に荒れてしまったり、いなくなったりして、ほとんどいなくなってしまうわけだろう。
(亀山議長)
- ・5年目以降は、どこも減少している。
(堀口委員)

事務局

- ・サワトラノオについては、なかなか生態的なことが分からない条件の中で生育実験を行い、3年目以降は、毎年花を付けて、種を落とし、発芽するというサイクルを繰り返すということがわかり、「3年目からは同じサイクルをする」と書かせていただいた。
- ・増殖実験や日照実験以外の発芽実験などを含めて、今までの成果をここで生態学的特性としてまとめたということで、ご理解いただきたい。条件が悪いと死ぬものがあるのは間違いないが、基本的に生き残る場合には、毎年、花を咲かせて種子を落とすサイクルを繰り返すということでまとめた。
(大宮国道)

- ・しかし、参考資料のとおり、いろいろな条件で実験を実施したが、ほとんどの場合は消えていってしまうわけではないか。これと今のご説明は合わない。
(亀山議長)

④ 希少植物の保全の進め方について		
議事3 (希少植物の保全の進め方について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・増殖実験の目的は、どういう水分条件だと生き残るのかの実験。 ・現況湿地で水があるようなところだと新出株も出ないが、競争種がいなければ、斜面上部から下部の条件でも生育できることが分かり、どのような土壌水分、高さがいいかというのを把握した。 ・競合種が抑えられる、自生地みたいにヨシの生育するような場所で植えて様子を見てみたいというのが、今回のご提案の趣旨になる。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・だから、いろいろな条件でやってみたわけではないのか。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分の条件である。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・でも、消えてしまうわけでしょう。それでは、この実験は駄目だったという話なのか。これは当てにならないという話なのか。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・どの高さで生えるかということさえも分かっていなかったのもので、どの高さで、土壌水分の条件としてどれがいいかということをも目的とした調査である。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・なので、いろいろな条件で実施した。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・高さの違いである。 (大宮国道)

④ 希少植物の保全の進め方について

<p>議事3 (希少植物の保全の進め方について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だが、結果的には割とみんな消えていくような方向になっているのではないか。 ・何が生態学的かは分からないが、3年目以降の株は2年目の生活史を繰り返すということとは合わない感じがする。資料からそれは読み取れない。 (亀山議長) ・私たちは、今までの増殖実験などの結果をどのように客観的に評価しようかというところ。文献調査と生育実験結果より把握したと書いてあり、生活史の中にこれらが入っているということとはつながらない。 (北村委員) ・順調に育ったらという、自然環境の中の「順調」とは何かという話。そういう言葉は使わない。 (北村委員) 		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">事務局</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員から減ってしまうというご指摘を頂いたが、当初株は減っているが、当初株と新出株を足し合わせたときにどうなるのか。また、実験地には下草を押さえてくれるような高茎草本がなく、どうしても下がり傾向になる。 ・水分条件については、下部から上部が生育できる環境というところまで確認できているので、加えて日差しを遮ってくれるようなところ、低茎草本の草木が生えないような環境を整えてあげることが大事なのだろうということが分かったので、今回、そのような形になっている。 (大宮国道) </td> </tr> </table>	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員から減ってしまうというご指摘を頂いたが、当初株は減っているが、当初株と新出株を足し合わせたときにどうなるのか。また、実験地には下草を押さえてくれるような高茎草本がなく、どうしても下がり傾向になる。 ・水分条件については、下部から上部が生育できる環境というところまで確認できているので、加えて日差しを遮ってくれるようなところ、低茎草本の草木が生えないような環境を整えてあげることが大事なのだろうということが分かったので、今回、そのような形になっている。 (大宮国道)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員から減ってしまうというご指摘を頂いたが、当初株は減っているが、当初株と新出株を足し合わせたときにどうなるのか。また、実験地には下草を押さえてくれるような高茎草本がなく、どうしても下がり傾向になる。 ・水分条件については、下部から上部が生育できる環境というところまで確認できているので、加えて日差しを遮ってくれるようなところ、低茎草本の草木が生えないような環境を整えてあげることが大事なのだろうということが分かったので、今回、そのような形になっている。 (大宮国道) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・新出株も消えているのではないか。 (亀山議長) 		
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・減っている理由というのは、例えば実験地では草刈りや草の抜き取りをして、その翌年も同じように抜くわけであるが、抜いてみたものの、今度は抜くのに強い種が残ってしまうという悪循環があって、個体数は全体数とすると下がり傾向である。 		

④ 希少植物の保全の進め方について		
<p>議事3</p> <p>(希少植物の保全の進め方について)</p>	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ただし、斜面の下部については、もともとの移植株数である30株に対して、それに近い株数が確認されている。つまり、実験期間外の平成29年以降の数字を見ると、斜面下部はよりいい傾向ということ。 ・これらの結果から、移植地選定条件として、上部から下部、かつ競合種の拡大を抑制できるような条件を選定するのがよいということが、令和3年、4年までの分析から分かるのではないか。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ということは、いい条件を絞って、また実験的に植えてみようということか。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・いい条件を絞って移植適地とすることを考えており、今度は栽培株を用いて移植して、今度はまたその状況を見ていきたい。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・斜面下部というところは、結果的には草むしりをしたからなのか、お花畑にしたからなのか分からないが、唯一ここだけが新出株がある。実験結果からすると、斜面をたくさん作って、下部のところだけに植えるということになる。そういう環境をたくさんつくっていくのかということにもなるが、説得力がない気がする。 (北村委員)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面をつかって下部に植えるということではなく、斜面下部は地表から地下水10cmまでという地下水条件になっている。 ・現況湿地のようにひたひたのところはサワトラノオに厳しいが、斜面上部のような比較的乾燥傾向のところについては、低茎草本がやはり強い。地下水が地表から10cmぐらいの実験地では、いい傾向が見えており、自生地の結果とも符合している。

④ 希少植物の保全の進め方について		
議事3 (希少植物の保全の進め方について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・増殖実験や自生地の状況を総括すると、地下水位は概ね地表下0～0.15mというものが、追加の分析でも確認できた。 ・お花畑のように手を入れてもなかなかうまくいかないところがあるので、持続可能な、ぎりぎり生き永らえる条件は、やはり自生地と同じような環境ではないかということで考えているところ。 ・草は当初から抜き取っているが、抜いていくうちに自然に抜きやすいものが最初になくなり、抵抗性があるものが残っていく形になり、同じように労力をかけていても、抜きにくいものに地表がだんだんと覆われていく。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると、資料の5ページに戻るが、「生活史」の「3年目」のところ、このまま生きているとうまく行くだろうという感じになるが、「生育実験結果より把握した」のだとしたら、こうはなっていない。これはどうしたら良いか。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・生育実験結果からはこのようなことになっていないので、表現を見直した方がいいかと思う。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・これを根拠に何かをすると間違えるから、「生育実験結果から把握した」というのであれば、この表現は取ってしまった方がいい。その上で、また実験をやろうというわけか。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・増殖実験と違うのは、周りの植生群落もセットで適地を創出しながら、状況を見ていきたいと思っている。 (大宮国道)

④ 希少植物の保全の進め方について

<p>議事3 (希少植物の保全の進め方について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また10年ぐらいやってみないと、消えてしまうかどうか分からない。ということは、そのくらい時間がかかる。参考資料を見ると、だんだんと消えていってしまうわけであるから、そうすると10年くらいやるのか。モニタリングにより移植株と新出株の生育状況を確認し、全体移植を実施するとあるが、10年くらい確認するのか。 (亀山議長)
	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング期間については、また検討会でモニタリング状況を報告させてもらうが、今考えているのは、当初株と新出株を足して、世代交代という表現がいいのか、サワトラノオが自生していけることが、一つの確認ポイントなのかなと考えている。 ・他の条件も、いいか悪いかでいうと、一言で悪いと言えるかは分からないが、結果としてあまりよくなかったところの数字を見ると5年、10年という話が出てくるが、今回はよいところのデータで部分移植する。その部分移植の結果について他のいろいろなグラフを見ると「危ないな」と思う。モニタリング期間は何年が良いかということも継続して意見や助言などを頂きながら、全体移植に向けて進めていきたい。 (大宮国道)
	<ul style="list-style-type: none"> ・要するに、また実験したいということか。実験してみなければ分からないということか。 (亀山議長) ・ここの状況をずっと見ていった方が早いのではないか。植えても、この斜面下部の状況を見ていったのと同じことではないか。 (北村委員)
	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験地は裸地に近いところをベースにしているので、植生群落というのか、サワトラノオ以外のものもセットで考えて、移植地としてどういうところがいいのか検討を重ねていきたい。 (大宮国道)

④ 希少植物の保全の進め方について			
議事3 (希少植物の保全の進め方について)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増殖実験の結果でいうと、斜面下部だけ望みがあるということなので、ここを頭の中に入れながら、他の草も生えているような場所で実験してみたいということか。それを元に判断して、全体移植をするということだから、やってみたらいいのかなと思う。 ・ いずれにしても時間がかかる。サワトラノオは、消えていきやすい種のようなので、実験をまたしばらく繰り返すことになるということではないか。 (亀山議長) 		
	<table border="1"> <tr> <td>事務局</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議長のご説明のとおり、今回進めていきたい。 (大宮国道) </td> </tr> </table>	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議長のご説明のとおり、今回進めていきたい。 (大宮国道)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議長のご説明のとおり、今回進めていきたい。 (大宮国道) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験することについて、反対はないかと思うがどうか。表現の仕方は直していただくことにする。お認めいただけるか。 (亀山議長) ・ よい。 (複数委員) ・ 10年ぐらい見ることを前提にということか。 (北村委員) ・ だって、かなり長期的に見ないとわからないだろう。 (亀山議長) ・ 資料のグラフで見ると、30株を植えて0になるのが5年間である。それから5年後で少し減ってきているということになると、少なくとも10年は見なければいけないということになるのか。 (北村委員) ・ そのくらい見ないとわからないだろう。 (亀山議長) ・ それを前提に実験を認めるということか。10年様子を見るということで、実験を認めるということになるのか。 (北村委員) ・ 10年見るかどうかにしても、これでいいと思えるところまでの実験結果がないとその先に進めないということではないか。 (亀山議長) 			

④ 希少植物の保全の進め方について

議事3

(希少植物の保全の進め方について)

- これはポットに入れたものの移植実験か。説明を聞いてみると「部分移植」という言葉がやたら出てくる。部分移植というのは、自生地のを部分移植するのであって、これは別の話なのかはっきりしておきたい。
(堀口委員)
- 部分移植という言葉を使うからややこしい。自生地の部分移植と勘違いしているのではないか。
(堀口委員)
- これは言い方を変えた方がよい。現在、自生しているところのを部分的に移植するわけではなく、栽培株の移植実験をしているのでしょ。う。
(亀山議長)
- 再実験ということではないか。
(北村委員)
- 言い方としては、そういうことである。
(亀山議長)
- 今お話に出たように、移植は2回にするのか3回にするのか、言葉があやふやなので、その解釈にずっと悩んでいる。
- この栽培株移植は何年間のモニタリングを行い、どのような結果になったら成功と判断して、サワトラノオ自生地の移植に移行するかを明らかにしておく必要があるのではないか、という意見が委員の間では出て、それを提出した。事前説明の資料の指摘事項とその対応の表では、これらに対して「継続審議」と記され、グラフ等を用いた容観的な説明はなかったせいもある。
- 前回の検討会議から3カ月近くもたつが、モニタリング結果のグラフすら提出されず、さらに時間をかけて「継続審議」とされる理由がよく分からなかった。
- 湿地保全計画に記されているサワトラノオ自生地の部分移植と全体移植と、今回の栽培株移植との関連もよく分からない。

④ 希少植物の保全の進め方について

議事 3

(希少植物の保全の進め方について)

・ 上尾道路周辺で最も保護上の重要性が高いサワトラノオ自生地の移植に対しては、栽培株によるポット苗移植を行い、その成果に応じて自生地の「部分移植」から「全体移植」へと移行する3段階の移植手順が望ましいことから、その点を明確にして、着実にサワトラノオの保護を図っていただきたく要望する。

(小川委員)

・ 部分と全体と言ったときの部分が、全体の中の部分ではないというところがあるので、ここで要望がすごく混乱する。たぶん、部分と全体は自生地の部分と自生地の全体という言葉なのだから、部分はポット苗ではないというように、宿題としてきちんと整理していただく。

(亀山議長)

・ 後行2車線について、事業化に向けてどういうふうにするのか、いろいろな見方をすると考えている。10年間は自生地の移植はできない、部分移植もできないということになるが確認しておきたい。

(北村委員)

・ 10年と書くか書かないかは別として、きちんと結果を見て、よしとなったときに考えるということ。だから、実験をまずしっかりしていただいて、しっかりモニタリングするということがよいか。

(亀山議長)

・ よい。

(複数委員)

・ 宿題となっていたものも説明していない、モニタリングの結果もまだ終わっていない、案を作って皆さんに回すと言ったこともやっていない、たくさんやることがあるのではないかと思う。

(北村委員)

・ では引き続き、早急に、26回を開くということで。

(亀山議長)

事務局

・ 分かりました。

(大宮国道)

④ 希少植物の保全の進め方について

議事 3

(希少植物の保全の進め方について)

・前回検討会議では、私たちの意見書に記した「湿地保全計画 Part II」については、時間切れで議論することができなかった。この間に、桶川の「湿地保全エリア」の土地取得に向けた地元説明会も実施されたとも聞いており、また、測量も現実に入っている。前回議論されたバイオトープ型浄化施設の具体化も含めて、令和5年度は、上尾道路周辺の保全整備が目に見える形で進展することが期待される。こうしたタイミングの中で、湿地保全計画を改定し、上尾道路周辺地域の自然環境の保全・管理・活用等に関係する包括的な課題について、検討に着手することがとても重要だと思う。

・検討会議の規約をあらためて確認したところ、「第3条(組織)」の3項目で「湿地環境の保全・再生及び湿地に生息する在来動植物の保全・育成・管理を行うことを目的として、湿地保全プロジェクトチームを設置し、チームのメンバーは議長が委嘱する」ことが規定されている。

計画の改定に際しては、参加することが望ましいメンバーの選定を検討して、新たな湿地保全プロジェクトチームを設置して進めることが最も違和感がないと思う。

・湿地保全エリアの公有地化を進め、サワトラノオの新たな移植実験も開始されるのであれば、この機会に今後必要となる重要課題を整理し、保全・管理・活用を担う関係団体等との台意を図る「湿地保全計画 Part II」の策定について、令和5年度より具体化に向けて、早急に着手していただきたいと要望する。

(小川委員)

・ぜひこちらの方に向かって進んでいていただきたいと思う。

・栽培株の移植については、さらに移植実験したいということなので、やってみてもいいのではないかと考えるので、そこまで見させてもらおう。

(亀山議長)

事務局

・実験的な移植について、今後進めていきたいと考えている。

④ 希少植物の保全の進め方について		
議事3 (希少植物の保全の進め方について)	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・サワトラノオ以外の希少種の種子の採取についても、今後、何かあった場合に対応できるようにということで進めていきたいと思っており、種を採るとか、あるいは埋土種子を攪拌して増やしてみたいとか、そういったことも考えている。これについても大丈夫か。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・そこはまだ議論もしていないので、早急にもう1回やらなければならない。 (亀山議長) ・実験といっても、具体的にどのようにやるのかがいまひとつ。 (北村委員) ・早急に開催し、そのときに決めるというようにしなければならない。 (亀山議長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、試験的にやってみたらどうかということも頂いているので、そのような形で準備が整ったら着手していきたい。 (大宮国道)
		<ul style="list-style-type: none"> ・どうやるのかをきちんと議論しないと。 (亀山議長) ・勝手にやるという話ではないと思う。 (北村委員) ・勝手にやってくださいと言っているわけではない。 (亀山議長) ・理念的に移植してみたいというご希望を聞いて、それはいいだろうというところまで。具体的にどうなるのか、まだそのところは議論していないので、やってみるよという話にはならない。 (北村委員) ・実験したいなら、会議をもう1回開けばいい。 (堀口委員)

④ 希少植物の保全の進め方について		
<p>議事3 (希少植物の保全の進め方について)</p>	<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移植の具体的な方法が分かりにくいという話があり、移植の実施概要を補足説明するステップが必要かと思うので調整したい。 ・全体移植についても時間切れになったので、また次回以降にご説明させていただければと思う。 (大宮国道)

⑤ その他		
その他	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事概要や会議資料のホームページ掲載は、前回検討会議の議事概要を確認いただき、修正等のご意見があれば、その修正を頂いた形で対応したい。 ・ 栽培株の実験的な移植について、具体的な方法という宿題を頂いているので、また次回以降、整理して議論させていただきたい。 (大宮国道)